

構造センス育成講座 第7回 「屋上庭園について」

今回はコルビュジェの近代建築五原則の一つ「屋上庭園」を取り上げます。「屋上庭園」と聞くと、今でいうガーデニングなどの自然溢れる場所をイメージしがちですが、ここでは「屋根」以外の機能を持った場所を「屋上庭園」として考えます。

日本での屋上庭園の歴史は、20世紀初頭に「休息」や「眺望」用途とし作られ始めました。その後百貨店の屋上などに、遊戯場やゴルフ練習場などの「遊戯・運動」用途の屋上庭園が作られ、戦時中には監視所や迷彩効果を期待して屋上緑化が施された「防空」用途の屋上庭園もあったそうです。また屋上に鳥居を見ることがありますが、あれも「奉祀」用途の屋上庭園の一種と考えられます。

次に、屋上庭園のメリット・デメリットを考えてみます。まずメリットとして考えられることは、屋根以外の機能を付加することによる利便性の向上があります。屋上緑化をした場合は、ヒートアイランド対策としての効果や、緑があることによる癒し効果、さらにはSDGsの目標の1つ「気候変動に具体的な対策を」にも該当すると考えられます。反対に屋上庭園のデメリットは防水・排水問題です。陸屋根は排水が悪く水が溜まりやすいことで、雨漏りの可能性が高まります。

屋上庭園がある、現在の建築物の一例



【写真：アクロス福岡（日本総計+エミリオ・アンバース：1995）】 【写真：あべのハルカス（竹中工務店：2014）】

【写真：台中国家歌劇院（伊東豊雄：2014）】
撮影：古久根 有二

そして現代では、屋上庭園に新しい「用途」の取組みも始まっています。「都市養蜂」です。東京銀座では2006年から「銀座ミツバチプロジェクト」として、日本橋周辺では2016年から「日本橋みつばち倶楽部」として都市養蜂が始まっています。ただ都市養蜂では、洗濯物や車への蜂の糞害と言った問題も発生しているようで、今後どうなっていくかはまだ分かりません。

コルビュジェが近代建築の五原則を提唱してから100年近く経ちますが、屋上庭園は「用途」を変化させ今も受け継がれています。